

文学部生の

リアルな! 学生生活

vol.10



バンコクのJICAオフィスにて

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

「大学ってこんなにお金がかかるの...」。高校時代、大学進学に向けて調べ出したとき、学費を見て驚愕した。私は決して裕福な家庭に生まれたわけではない。さらに、地方出身であり、県外の大学へ進学すると、一人暮らしのためにさらに費用がかかる。経済状況を考慮して、学費について悩んでいた矢先、「中央大学予約奨学金」に出合った。審査を通過すると、入試前に給付型の奨学金が内定するという。しかも、授業料半額相当が4年間継続して給付される。学修環境が整った私立大学への進学に希望が見えた。早速書類を集め、申請する。結果は見事内定。受験勉強も手を抜かず、入試も無事合格。こうして、中央大学文学部への入学が決定した。

高校のころから英語が好きだった私にとって、この英語文学文化専攻は最適な学びの場であった。文学作品を「読む」とはもちろん、「書く」「聞く」「話す」など英語に対して多角的にアプローチすることができ、1年次はほとんど英語漬けの毎日、小説講読だけでなく、英語でのエッセイ執筆、ディス

カッション等、積極的に英語への学びを深めていった。英語講座にも何度か参加し、TOEICのスコアが飛躍的に伸びたのもこのころだ。2年次の春休み、自分の学びのフィールドを広げたいと思い、「中央大学タイ短期研修プログラム」に参加した。約2週間、JICAや障がい者センター、現地の大学、青年海外協力隊の方が活躍する現場等の視察を通して、発展するタイの現状を知ると同時に、児童保護施設やスラム街も訪れ、途上国に潜む光と影を肌で感じてきた。ここでの体験は、私の知的探求心を刺激し、今まで勉強に励んできた「英語」以外の新たな分野への興味を持つきっかけとなった。

3年次からは、グローバルスタディーズや総合政策学部の授業を履修し、ボランティアや世界の社会問題についての学びを深めていった。自専攻以外にも幅広く学ぶことができる点は中央大学の魅力のひとつである。また、夏休みにはカンボジアで飲食店を経営するというインターンシップに挑戦し、マーケティングについて実践的に学び、その難しさや楽しさを体感した。その後、夏から秋にかけては、タイ短期研修での経験を活かし、研修メ

奨学金のおかげで 得られた多くの学び

たなべ
田邊 ちひろ

文学部人文社会学科英語文学文化専攻4年
山梨県立吉田高校出身



タマサート大学にて(右から2番目が私)

ンバーでチームを組み、英語プレゼンテーション大会に参加した。テーマは「グローバル社会につながる地域社会ネットワーク」。私たちは、タイのスラムにおける防災技術の普及について発表した。学年も学部も異なるメンバーで参加したため、練習時間の確保に苦労したこともあったが、大学内の予選を勝ち抜き、本選であるグローバル人材育成フォーラムでは、見事3位に入賞することができた。今まで学んできた英語と社会的分野の双方の知識を活かすことができたことと、約5カ月間にわたりメンバーと協力し、努力を重ねたことの結果が実り、喜びもひとしおであった。



英語プレゼンテーション大会の様子

現在私は、大田ゼミに所属している。このゼミでは、近代イギリス小説の研究だけでなく、それに関連した現代社会の問題にまで学びの幅を広げることができる。ゼミ論文は、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』に登場する怪物を現代の視点から考察し、マイノリティに対する偏見や差別の問題に関連づけた内容で執筆した。英文学はもちろん、大田先生の現代社会に対する思いや、一つの分野にとどまらない知識の深さにはいつも感化されている。積極的に自分の学びを実現でき、このゼミに入ってから本当に良かったと思う。

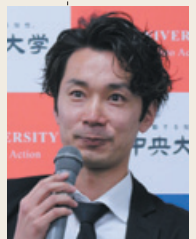
これまでの学生生活を振り返ってみると、多くの知識を深め、積極的に挑戦し、常に活発に活動してきたという印象である。予約奨学金をいただいているという責任と感謝の意識があるからこそ、勉強や課外活動により一層力が入るのだと思う。大学生活も残すところあと1年。これまでの経験で身につけた知識や自信、向上心を胸にこれからも努力し続けるつもりだ。最後に、今まで支えてくださった先生方やまわりの友だち、どんなときでも応援してくれた両親や家族にはいつも感謝している。ありがとう！

From the Faculty of Letters
文学部だより

“キモチ”を“カタチ”に

文学部事務室

岡本 崇郁おかもと たかふゆ



置かれているからです。^{※1}

文学部学生が対象になっている「奨学金」は左表の通りです。

いずれの奨学金も、活動にかかる費用の約30%から90%程度をまかなえる給付額になっています。^{※2}

「ご子女との何気ない会話から「留学行きたい!」「なんか活動したい!」という気持ちを汲み取った折には、文学部事務室へご相談ください。できる限りご子女の「キモチ」を「カタチ」にできるよう対応させていただきます。

イメージしてみてください。
たとえば、文学部に在籍しているご子女が「留学したい!」「国内外で何かしらの活動がしたい!」「という気持ちがあるとして。しかし「その気持ちを応援したいけど、経済的な理由であきらめざるをえない!」という状況だとしたら。

ちよつと待つてください! その状況を解決できるかもしれません! なぜかという、文学部設置の「奨学金」のいくつかは「留学」や「国内外での活動」を支援するために設

置かれています。

●大学で開設している「短期留学プログラム」に参加する

↓「短期留学プログラム給付奨学金」に出願できます!

▲半年から1年間の「長期留学(交換・認定)」が決定している

↓「長期留学奨励奨学金」に出願できます!

↓さらにフランス語圏へ行く場合は「フランス語圏派遣留学生特別奨学金」にも出願できます!

■自分で計画を立てて国内外で活動したい!

↓「学外活動応援奨学金」に出願できます!^{※3}

※1 奨学金は書類・面接等の選抜審査があります
※2 奨学金によって給付額は異なります
※3 自分で計画を立てられれば出願条件は特にありません